

# くらしのながの 水道・下水道

～水道水の水質検査と水道週間～



Dr. すいどー

2カ月に1回、水道と下水道のしくみや事業についてお知らせしています。今回は、安心・安全な水をお届けするためにやっている水質検査と水道週間についてです。

上下水道事業所 ☎25-5522

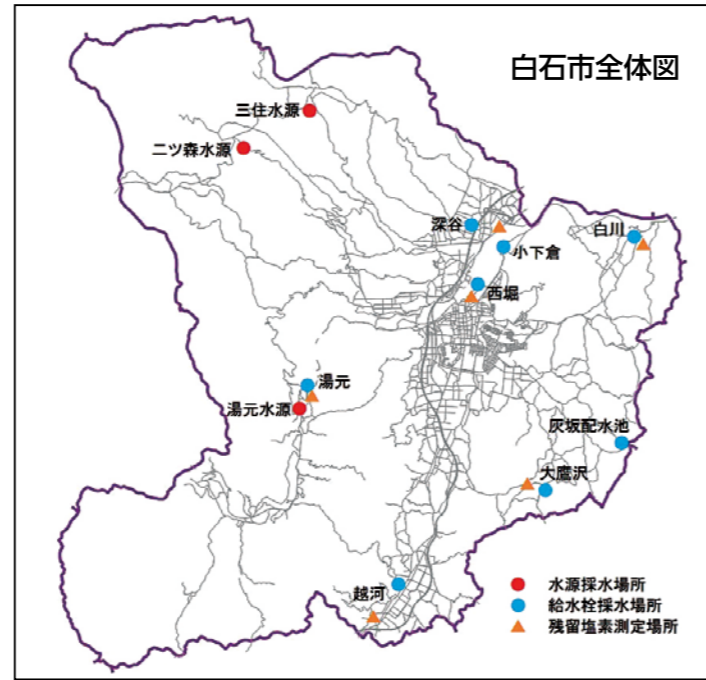
## ■水道水の水質検査について

水道水は、水道法で定める水質基準に適合するものでなければなりません。水質基準には、「健康」と「水道水の性状」に関する項目などが定められており、水道事業体は水質検査計画を策定し、水道利用者への情報提供と水道水の検査を実施することとなっています。

本市では、安全で良質な水道水をお届けするために、水道法に基づき「令和3年度水道水質検査計画」を策定しました。水質検査は毎月、水源3カ所、給水栓8カ所から採水し、専門の検査機関で高精度機器や顕微鏡、味覚や嗅覚の感覚など最大51項目のさまざまな方法の検査を行い、健康に影響がない安心・安全な水であることを確認しています。

また、水道水の消毒効果を示す残留塩素濃度は、配水管の管末付近の6カ所に設置した「自動測定装置」で24時間監視を行い塩素濃度を確認しています。

蛇口を開けばいつでも出てくる水道水が、安心・安全においしく飲めるようにこれからも水質の管理を徹底していきます。



▲水道水の採水場所と残留塩素濃度の測定場所



▲精密機器を使用した水質検査

※令和3年度水道水質検査計画と令和2年度に実施した水質検査結果は、上下水道事業所のホームページでお知らせしています。



## ■令和3年6月1日から7日までは第63回「水道週間」です

水道週間は、厚生労働省が、各事業体での広報活動などをおして、水道への理解と関心を高めることを目的に昭和34年から実施されています。

本年は、「生活も ウイルス予防も 蛇口から」をスローガンに広報活動などが実施されます。

本市では、令和3年3月に策定した「水道ビジョン」をホームページで公表しており、水道事業の現状や課題、将来の方向性をお伝えしています。また、期間中は上下水道事業所に横断幕を設置するとともに、小・中学校などへポスターを配布し、水道に関する広報活動を行います。

水道週間をきっかけに、わたしたちの暮らしの中の水道について考えてみましょう。

# 公立刈田総合病院の存続に向けて 当面の資金繰りとともに 早急な経営改善の方策を

「運営検討委員会」を設置し  
今後の在り方を検討

5月18日、公立刈田総合病院（以下「刈田病院」）を運営する白石市外二町組合（以下「組合」）の正副管理者会議が開催され、刈田病院の今後の在り方を議論するため、住民の代表や有識者からなる「公立刈田総合病院運営検討委員会」を設置することが決定されました。検討委員会では、経営改善や経営形態、医師確保対策などが住民目線・専門家目線で議論され、刈田病院に対して提言をいただく予定としています。

刈田病院存続のため  
最大限の努力を

4月26日に行われた正副管理者会議では、令和3年度の事業計

画において、経常収支で約22億4千万円の赤字となる見通しが示されました。また、病院建設分の企業債や金融機関からの借入金金の返済などが重なる9月には保有現金が底をつき、資金ショートに陥る可能性があることも報告されました。主な要因は、新型コロナウイルスの影響と、整形外科・麻酔科の常勤医師不在をはじめとした医師不足による診療体制の縮小が、収益の減少につながっていることにあります。

現在、組合を構成する白石市・蔵王町・七ヶ宿町の間では、「地域医療に空白を生じさせないために、刈田病院を何とか存続させたい」という方針は一致しているものの、刈田病院の経営形態をはじめとする今後の方針が定まっていない状況にあります。今後、検討委員会からの提言を

ふまえ、刈田病院の在り方を早急に議論していくことになり、現在の体制を続けられれば、刈田病院の赤字額は増え続けることは明らかであり、病院の赤字は1市2町の負担・住民の負担につながっていきます。

公立病院だから赤字で良いというわけではない。刈田病院が地域の人たちに必要とされる病院になるために協力したい」と話し、管理者の山田市長は、「これからも住民の皆さんの病院となるように、みやぎ県南中核病院との連携プランを進めながら、地域医療を守っていききたい」と話しました。

刈田病院の存続に向けて、資金ショートを回避するための当面の資金繰りとともに、今後の在り方の協議を1市2町で重ねてまいります。

医師紹介業務を通じて  
整形外科医師1名が着任

5月10日、2月市議会で認定された医師紹介業務に基づき、刈田病院に整形外科の医師1名が着任しました。同日の辞令交付式で着任した濟陽輝久医師は、「頑張って黒字にしている病院がある。

濟陽医師は週4日、整形外科の外来診療に従事。刈田病院に支援を行っている医療法人「相生会」の北島敬一医師は、週4日の健診に加え「メタボ糖尿病外来」を開始しました。また、5月31日から新型コロナウイルススワクチンの集団接種がホワイトキューブでスタート。接種は、白石市医師会の医師・看護師の協力により進めています。相生会の医師にもワクチン接種に協力いただいています。



▲山田管理者から辞令を受ける濟陽医師